

- 問1 国風文化の発展を支えた、漢字を簡略化して作られた文字を何という？
- 問2 平泉の奥州藤原氏が、極楽浄土を表現するために建立した金箔の仏堂を何という？
- 問3 摂関家を外戚に持たず、荘園整理令を出して藤原氏の勢力を抑えた天皇は誰？
- 問4 上皇が権力を強めるため、自らの警護や武力行使のために雇った地方の武士団を何という？
- 問5 空海が開いた高野山の金剛峯寺が総本山である、平安時代に広まった仏教の宗派を何という？
- 問6 『源氏物語』を書き、平安時代の国風文化を代表する女性作家は誰？
- 問7 摂関政治を抑制し、独自の権力を取り戻そうとした天皇は誰？
- 問8 平安時代に宮廷の出来事や自然の美しさを短文でつづった、日本最古の随筆を著した女性は誰？
- 問9 平治の乱で勝利し、武士として初めて太政大臣に任命された人物は誰？
- 問10 日宋貿易で力をつけた平氏一族が厚く信仰した、安芸国にある神社を何という？
- 問11 平安時代に瀬戸内海地方で海賊を率いて反乱を起こした人物は誰？
- 問12 平安時代初期に、唐で密教を学んで帰国し、高野山を拠点として真言宗を開いた僧は誰？
- 問13 国風文化のなかで、漢字を簡略化して作られた文字を何という？
- 問14 清少納言が仕え、『枕草子』執筆のきっかけとなった一条天皇の後は誰？
- 問15 空海が唐で学んだ密教を日本に広めるために金剛峯寺を建立した際、唐へ渡った制度を何という？
- 問16 源氏物語が生まれた当時の、貴族の感性を反映した日本独自の華やかな文化を何という？
- 問17 空海が高野山に建立した、真言宗の総本山として知られる寺院は何？
- 問18 平安時代初期に最澄が天台宗の総本山として延暦寺を建立した場所はどこ？
- 問19 794年、奈良の平城京から都を現在の京都へ移し、新しい都を建設した天皇は誰？
- 問20 平安時代初期、地方政治の立て直しを図り、国司への監督を強化した天皇は誰？
- 問21 「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも 無しと思えば」という歌を詠み、摂関政治の全盛期を築いた人物は誰？
- 問22 摂関政治の全盛期に「望月の歌」を詠み、栄華を極めた人物は誰？
- 問23 平安時代、地方の政治が乱れる大きな原因の一つとなった制度の廃止を何という？

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え</b> <b>かな文字</b>	漢字の草書体を簡略化した「ひらがな」や、漢字の一部をとった「カタカナ」が普及しました。これにより、複雑な漢字を使わずに和歌や日記、物語などを自由に書けるようになり、文学表現の幅が大きく広がりました。
問2	<b>答え</b> <b>中尊寺金色堂</b>	中尊寺金色堂は、建物の内外を金箔で覆った非常に豪華な造りです。奥州藤原氏の財力を象徴するだけでなく、戦乱の絶えない現世を離れ、平和な極楽浄土を地上に再現しようという願いが込められています。
問3	<b>答え</b> <b>後三条天皇</b>	後三条天皇は、母が藤原氏出身ではない天皇として即位しました。記録荘園券契所を設置して延久の荘園整理令を出し、不正な荘園を廃止して朝廷の財源を確保しました。これにより、藤原氏の経済的基盤が揺らぎ始めました。
問4	<b>答え</b> <b>北面の武士</b>	白河上皇が御所の北側に部屋を設けて警護させたことから「北面の武士」と呼ばれます。彼らは単なる警備員ではなく、実力行使の手段として上皇の信頼を受け、次第に政治的な発言力を持つようになりました。
問5	<b>答え</b> <b>真言宗</b>	真言宗は、空海が唐から持ち帰った密教の教えに基づく宗派です。呪文や曼荼羅（まんだら）を用いて悟りを開くことを目指す点が大きな特徴です。高野山にある金剛峯寺は、現在も真言宗の総本山として広く知られており、当時の貴族たちからも厚い帰依を受けていました。
問6	<b>答え</b> <b>紫式部</b>	紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。
問7	<b>答え</b> <b>後三条天皇</b>	後三条天皇は、母が藤原氏の出身ではなかったため、藤原氏の影響をあまり受けずに即位しました。彼は藤原氏の干渉を排除して政治を行うため、記録荘園整理令などの政策を打ち出し、天皇中心の政治を復活させようとしました。この動きが、のちの院政へとつながる重要な転換点となりました。
問8	<b>答え</b> <b>清少納言</b>	清少納言は、中宮定子に仕える中で見聞したことや、四季の美しさなどを鋭い観察眼で書き記しました。これが日本最古の随筆である『枕草子』です。理知的な文体と、当時の宮廷社会の様子を描いた内容が特徴です。
問9	<b>答え</b> <b>平清盛</b>	平清盛は、平治の乱で源義朝を破って政権を握りました。武士として初めて太政大臣に任命され、一族の繁栄を築き上げました。また、日宋貿易を積極的に進め、経済的基盤も強化しました。
問10	<b>答え</b> <b>厳島神社</b>	平氏一族は、安芸国にある厳島神社を厚く信仰し、社殿を豪華に造り替えました。海に浮かぶようなその姿は、当時の建築技術の高さと、貴族化した平氏の優雅な文化を今に伝えています。
問11	<b>答え</b> <b>藤原純友</b>	藤原純友は、瀬戸内海を拠点とする海賊のリーダーとして勢力を持ち、朝廷に対して反旗をひるがえしました。同時期に関東で平将門が起こした乱と合わせて「承平・天慶の乱」と総称されます。海と陸の二大拠点で同時に反乱が起きたことは、朝廷の地方支配の弱体化を如実に示しました。
問12	<b>答え</b> <b>空海</b>	空海は遣唐使として唐へ渡り、恵果から密教の教えを授けられました。帰国後、嵯峨天皇から京都の教王護国寺（東寺）を賜るとともに、和歌山県の高野山を修行の拠点として真言宗を開きました。密教は、經典の言葉だけでは表せない深い教えを、仏像や曼荼羅、印や真言などを使って表現するのが特徴です。
問13	<b>答え</b> <b>仮名文字</b>	仮名文字は、漢字の形をくずしたり、その一部を抜き出したりして作られた文字です。これにより、貴族たちは自分の感情を素直に表現できるようになり、和歌や物語の創作が盛んになりました。国風文化の発展を支えた最大の要因といえます。
問14	<b>答え</b> <b>中宮定子</b>	中宮定子は非常に教養深く、気品あふれる人物として知られていました。彼女に仕えた清少納言は、その優雅な振る舞いやサロンの様子を『枕草子』の中に書き残しました。定子は、平安貴族の優雅な生活を象徴する存在の一人です。
問15	<b>答え</b> <b>遣唐使</b>	遣唐使は7世紀から9世紀にかけて、朝廷が中国へ送った外交使節団です。空海や最澄ら多くの僧侶や留学生が渡り、仏教の教えや政治制度、芸術などを持ち帰りました。これにより日本の社会や文化は大きな影響を受けました。
問16	<b>答え</b> <b>国風文化</b>	かな文字の発達により、『源氏物語』や『枕草子』などのすぐれた文学作品が生まれました。また、貴族の住宅様式である寝殿造や、大和絵などの芸術も発展し、平安貴族の生活に深く根付いた文化が形成されました。
問17	<b>答え</b> <b>金剛峯寺</b>	金剛峯寺は、高野山にある真言宗の拠点となる寺院です。空海は嵯峨天皇からこの土地を下賜され、修行道場を築きました。広大な敷地には多くの寺院が立ち並び、宗教都市としての役割も果たしました。金剛峯寺は、真言宗の教えを広める中心地として、また信者たちが祈りを捧げる聖地として長年大切にされてきました。
問18	<b>答え</b> <b>比叡山</b>	比叡山は平安京（京都）の鬼門の方角にあり、都の守護を担うという意味も持っていました。ここに開かれた延暦寺には多くの僧侶が集まり、仏教の研鑽を積む拠点となりました。
問19	<b>答え</b> <b>桓武天皇</b>	桓武天皇は、こうした古くからの仏教勢力の強い影響を断ち切り、天皇中心の強力な政治を行うために遷都を断行しました。まず長岡京への遷都を試みましたが、工事の難航や不祥事により中止し、新たに平安京を建設しました。平安京は四神相応という風水思想を取り入れた計画的な都市として設計されました。
問20	<b>答え</b> <b>桓武天皇</b>	桓武天皇は長岡京を経て平安京へ都を移し、国家の立て直しを行いました。地方行政の主役である国司を中央から厳しく監視し、不正を防ごうとしました。また、蝦夷の平定にも力を注ぎました。
問21	<b>答え</b> <b>藤原道長</b>	藤原道長は、四人の娘を次々と天皇の后とすることで、揺るぎない地位を築きました。自身が摂政や関白になることもありましたが、それ以上に天皇の外戚という立場で朝廷を掌握しました。彼が詠んだ歌は、自身の権勢が満月のように欠けるところがないと誇る自信に満ちたものです。
問22	<b>答え</b> <b>藤原道長</b>	藤原道長はその摂関政治の頂点に立った人物です。娘の彰子を一条天皇の中宮にするなど、一族の女性を権力の中核に送り込みました。「この世をば…」で始まる望月の歌は、彼が自身の権力の絶頂期を月になぞらえて詠んだものとして非常に有名です。
問23	<b>答え</b> <b>遣唐使廃止</b>	894年の遣唐使廃止によって日本は中国との公的な外交関係を絶ちました。これにより、中央政府の関心は外交から国内統治へと向かいましたが、地方へ派遣された国司たちが現地に赴かず、京に留まって私腹を肥やすといった政治の腐敗が目立つようになりました。